

## 自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20530370

研究課題名（和文） MBA人材の活用からみた日本企業の経営グローバル化

研究課題名（英文） Globalization of the Management of Japanese Companies Viewed from Utilization of MBA Holders

研究代表者

岡部 曜子 (OKABE YOKO)

京都産業大学・経営学部・教授

研究者番号：30258181

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：MBA人材、ビジネススクール、日本的経営、内部経営資源

## 1. 研究計画の概要

本研究は、日本企業が国際経営において、海外のビジネススクールで MBA を取得してきた日本人社員をどのように活用しているかについて実証的に明らかにするものである。

## 2. 研究の進捗状況

平成 22 年度は、過去に米国の MBA に留学した経験のある日本人ビジネスマン、および現在米国の MBA に留学中のビジネスマンを対象に、インタビュー調査を行った。当初は、米国在住のビジネスマンに対しては、米国に出向いてインタビューすることを想定していたが、インターネットのスカイプの機能で十分にインタビューが行えることが判明し、この手段をとることにした。また、幅広く文献調査を行った。当初予定していたアンケート調査は、サンプル数が不足しているとの判断から、今回の研究では見送ることにした。一方で、同様の研究テーマで研究を行っている他の研究者と数回の研究会を開催し、意見交換の場を多く持った。他の研究者も、ここ 1、2 年の間に日本企業の多くが人材のグローバル化を強化する方針を打ち出していることに注目しており、外国人社員を新規採用することだけではなく、MBAホルダーの日本人社員をより有効かつ戦略的に活用していくことが必要である、との意見で一致した。このような見解の一致を受けて、吉原英樹（南山大学）および金雅美（和光大学）と共同研究を行い、共著の論文を執筆し、学会報告を行うことになった。この研究成果は今年 5 月に名古屋で開催予定の AIB (Association of International Business) の国際会議で発表することが決定している。この会議での報告論文は、報告後に他の研究

者と意見交換した内容や、さらなる文献調査やインタビューによる情報を加えて再検討し、書き直しを行って、学術誌に投稿する予定である。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

アンケート調査は見送ったが、吉原および金と共著で国際学会での報告にむけて英文の論文を執筆した。5 月に国際学会での発表が受諾されたので、発表にそなえて資料を作成している。

## 4. 今後の研究の推進方策

5 月に国際学会で研究報告を行った後、発表論文を手直しして、ジャーナルに投稿する予定である。また、並行して、MBAホルダーや企業へのインタビューを進める。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

① 岡部曜子「日本的経営と MBA: 米国 MBA 留学生の意識調査から」京都マネジメントレビュー、第 16 号、pp. 31-46、2009 年、査読なし。

〔図書〕(計 1 件)

① Kambayashi, N., Morita, M., & Okabe, Y., *Management Education in Japan*, Chandos Publishing, 2008.

